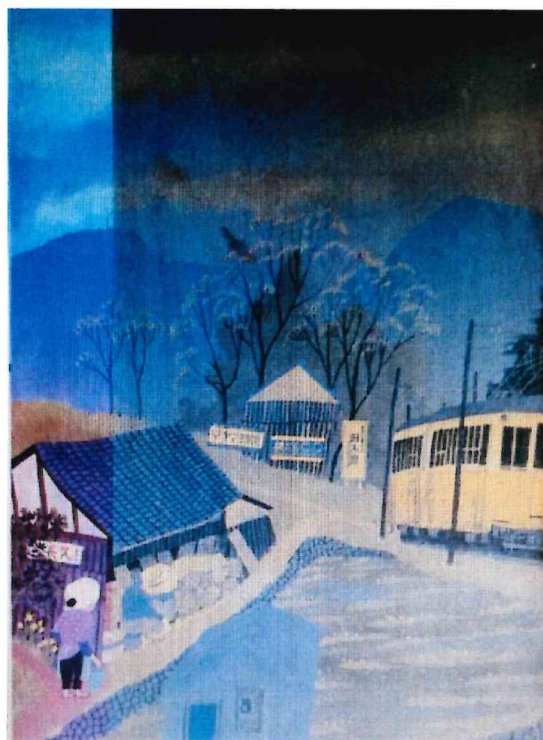


「野鉄」ともう一つの絵

新聞の切り抜きです。額に入れていたので、陽に焼けてくすんでいます。2両編成の野上電車が竹林のすぐ側を走っています。額から取り出してみると、陽に当たっていない部分は色鮮やかに残っていました。

絵の中央には、「国木原ゴルフ倶楽部」「紀の国 C.C」「ヤマヨ家具」の看板が、左下の「長久」の赤い文字が目を引きます。家の前には、頭に日本手ぬぐいの女性が長さ1mほどの竹をそろえています。竹は束ねられていて、野上谷の特産物の棕櫚箒の柄のようです。朝日新聞の日曜版の切り抜きですが、日付がわかりません。裏返してみると、今週の文庫の欄があり、井上ひさし『月なきみそらの天坊一座』の紹介がありました。昭和59年(1984年)2月が初版です。この絵が描かれたのは昭和59年頃かもしれません。野鉄は10年後に廃線を迎えますが、まだまだ元気に走っています。絵の感じから週刊新潮の表紙画で有名な谷内六郎氏かと思いますが、昭和56年(1981年)に亡くなられています。



同じように日本の原風景を描かれた方に原田泰治氏がおられます。原田泰治氏は、昭和57年(1982年)4月から昭和59年(1984年)9月までの約2年半に、全国47都道府県を訪れ「原田泰治の世界」という形で作品を発表されています。その一枚でないかと考えています。残念ながら原田泰治氏は、令和4年3月に亡くなっていました。現在、長野県諏訪市には「原田泰治美術館」があります。一度訪ねてみたいものです。

それでは、この絵が描かれているのはどの場所でしょう？野鉄沿線であることは間違いないと思いますが、いくつかの場面を合わせて構成したのかもしれませんが。野上新橋付近かと考えていますが、謎は深まるばかりです。

(令和4年7月25日)